

## 日本人鼻ノ研究補遺

### 其ノ四、梨子狀口ノ下縁ニ就テ

(昭和五年一月十五日受附)

金澤醫科大學解剖學教室(岡本教授指導)

講師 二井 一馬

(本篇ノ大要ハ第三十六回日本解剖學會ニ於テ發表セリ)

#### 内 容 目 次

#### 緒 言

#### 第一章 調査材料

#### 第二章 調査方法

#### 第三章 觀察成績

##### 第一節 梨子狀口下縁發生要約

##### 第二節 梨子狀口下縁形狀

##### 第三節 鼻前窩(Fossa prenasalis)

#### 緒 言

#### 第四節 頭蓋型ト梨子狀口下縁形狀

#### 第五節 上顔面型ト梨子狀口下縁形狀

#### 第六節 鼻型ト梨子狀口下縁形狀

#### 第七節 顔面角ト梨子狀口下縁形狀

#### 第八節 鼻高徑ト梨子狀口下縁形狀

#### 第四章 總 括

#### 主要文獻

#### 附圖説明

梨子狀口下縁ノ形狀ヲ見ルニ、或ハ鋭ク、或ハ鈍ク、又、暫々人類猿樣形狀ヲ示スハ既ニ喋々ヲ要セザル所ナリ。  
一八七二年 Topinard ニヨリテ頗ル興味アル形態的變化ノ提唱サレテヨリ以來、先輩諸家ノコレニ對スル研究報告  
尠カラズ、Zuckerlandl, Holl 及ビ Mingazzini 等ハ主トシテ發生要約ニツキテ論及シ、Abramov 及ビ Bonin ハ人種解

剖學の見地ヨリコレヲ研究セリ。

而シテ究メ得可キハ究メ、論ジ得可キハ既ニ論ジ盡サレタル哉ノ觀アリト雖モ本邦人ノコレニ對スル研究ハ予ノ寡聞未ダコレヲ知ラズ、僅カニ宮本氏ノ報告アルモ、コハ頭蓋觀察上、單ニソノ一部分トシテ論ジ、唯、簡單ニ分類ニ留メタルハ予ノ甚ダ遺憾トスル所ナリ。

予ハコノ意味ニ於テ既ニ他人種ニツキテ行ナハレタル論說ニ順據シテ本邦人頭蓋梨子狀口下緣形狀ニツキテ、比較觀察スルコト、セリ。

## 第一章 調査材料

調査材料ハ總テ金澤醫科大學解剖學教室所藏ノ北陸人頭蓋四百二十一個ニシテ、性的及ビ年齡の内譯ハ第一表ニ示セルガ如シ。而シテ予ハ九歳以下ノモノヲ小兒期(第一期)、十歳ヨリ十九歳迄ノモノヲ少年期(第二期)、二十歳以上ノモノヲ成人期(第三期)トナセリ。

## 第二章 調査方法

鼻高徑ノ眼窩部高徑及ビ下眼窩部高徑ノ決定ニ際シテハ、予ハ頭蓋ヲ豫メ Cubus craniophor 内ニ然カモ獨逸水平位ニ置キタル後、「ナジオン」、「ナゾスピナーレ」及ビ兩側眼窩最下緣ヲ硝子面上ニ求メ、後、描寫シ、第一圖ニ示ス如ク、兩側眼窩最下緣 A、Bヲ結ブ線ト「ナジオン」、「ナゾスピナーレ」ヲ結ブ線トノ交點(C)ヲ以テ鼻高徑ヲ眼窩部高徑ト下眼窩部高徑ノ二部分ニ分ツ點トナセリ。從テ鼻高徑ノ眼窩部高徑トハ C 點ト「ナジオン」トノ直線距離ニシテ、下眼窩部高徑トハ C 點ト「ナゾスピナーレ」トノ直線距離ナリ。(Zuckerlandl、Lucas 氏裝置ニヨリコレヲ決定セリト言フ)。計測ニハ「ニュース」附「グライイトルケル」ヲ以テシ、長サノ單位ハ耗ヲ以テセリ。

顔面角計測ハ、豫メ獨逸水平位ニ置キタル頭蓋ニ就キテ Mollison 氏挿入式角度計ヲ用ヒタリ。頭蓋長幅示數、上顔面示數及ビ鼻示數等ハ、予ガ「日本人鼻ノ研究補遺其ノ二」、梨子狀口ノ形狀

第一表 調査材料

年齡別	♂	♀	(♂+♀)
X — 9	1	5	6
10 — 19	14	10	24
20 — 49	121	67	188
50 — X	65	64	129
年齡不明	53	21	74
計	254	167	421

ニ就テ」ニ於テ、論述セルモノヲ、ソノ儘使用セリ。

### 第三章 觀察成績

#### 第一節 梨子狀口下緣發生要約

##### I、文獻

梨子狀口下緣ノ成因ニ關シテハ甲論乙駁、所說區々ニシテ一定セズ。

Zuckerlandl ハ、梨子狀口下緣ニハ或ル時期ニ於テ吸收現象來リ、銳利ナル梨子狀口下緣形成サル、モノナリトセリ。

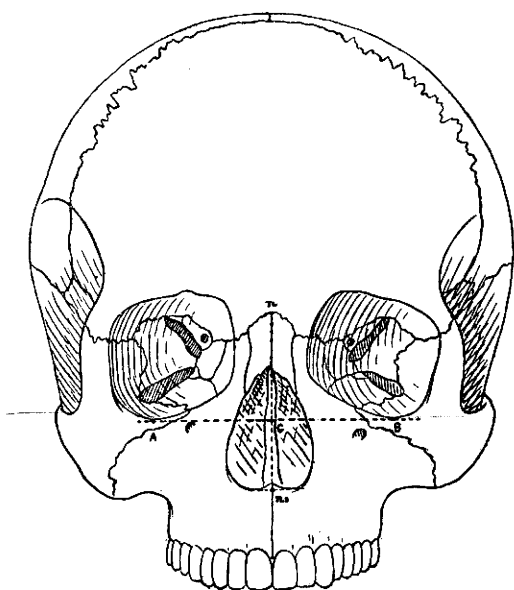
即チ該部骨組織ノ吸收現象ハ齒牙及ビ齒槽突起ノ發育ト共ニ、上顎間骨ノ鼻腔面ニ起リ、他部分顔面骨ノ發育完成ト同時ニ完了シ、鼻腔ト顔面骨部間ニ銳緣形成サル。然レドモ發育期ノ終結ニ達スルモ、吸收現象停止セザル時ハ、下緣ハ益々吸收サレ、鼻腔ト顔面骨部トノ境界線ハ消失シ、人類猿樣形狀ヲ示スニイタルト云フ。

Holl ニヨレバ梨子狀口下緣ハ次ノ順序ニテ形成サル、モノナリ。

一、六―八ヶ月ノ胎兒頭蓋ニ於テハ梨子狀口下緣ニ二個ノ櫛形成ヲ認ム。一ハ上顎間骨ニ於ケルモノニシテ、コレヲ顎間櫛(Crista intermaxillaris)ト云ヒ、他ハ上顎骨前頭突起ノ根部ニ於ケルモノニシテ顎櫛(Crista maxillaris)(鼻截痕ノ繼續線ト見ル可キモノ)ト名付ケ、猶ホ兩櫛間ニ暫々形成サル、一溝ヲ鼻前溝(Sulcus praenasalis)ト命名セリ。

二、齒牙ノ充分ナル發育ト共ニ顎間櫛ハ消失シ、顎櫛ノミ存在ス。カ、ル時ハ鼻腔ハ何等ノ境界ナク門齒骨顔面部ニ移行ス。コレヲ前鼻坦面(Planum praenasale)ト云フ。

第一圖



III、齒牙交替期ニ及ミテ Zuckerkhandl ノ云ヘルガ如キ梨子狀口下縁ノ吸收現象現ハレ、コレニヨリテ一旦消失セシ

顎間櫛ヲ再ビ形成スルモノナリ。而シテ顎間櫛ト顎間櫛ガ全ク連結スル場合ニ於テ鼻腔ハ鋭縁ニヨリテ顎間骨顔面部ト境界サル。

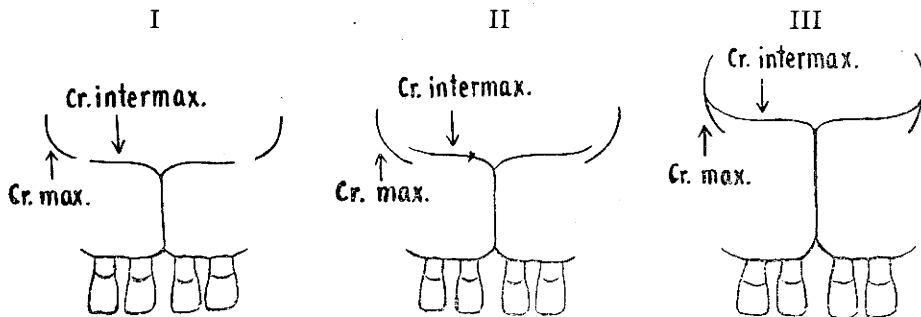
Mingazzini ハ、小兒頭蓋ヲ觀察シ、梨子狀口下縁ノ甚ダ鈍縁ナルヲ見タリ。猶ホ一歳ノ乳兒頭蓋ニ於テ前鼻棘特ニソノ尖端ヨリ、鼻截痕ト連結セントセル稍々鋭ナル境界線ヲ見タリ。コノ形狀ヲ境界線 (Margo limitans) ト命名セリ。而シテ歐人ニアリテハ境界線ノ發育強ク、鈍ヨリ鋭トナリ、ノミナラズ鼻截痕ト全ク連結シ、鼻腔ト顎間骨顔面部ハ劃然タル境界ヲ形成スルモノナリ。

## II、自家所見

予ハ日本人梨子狀口下縁形狀ノ觀察ニ當リ暫々鼻截痕ト前鼻棘ヨリ起ル一線トノ相接續セザルモノヲ見タリ。コレ Hohl ノ云ヘル顎間櫛ト顎間櫛トノ下縁ニ猶ホ存在スル形狀ナリ。而シテ兩櫛ノ狀態ヲ見ルニ極メテ複雑ニシテ、二櫛ノ殆ンド相連結セントスルモノ (第二圖第 I 型參照)、二櫛ノ互ニ喰ヒ違エルモノ (第二圖第 II 型參照)、又相連結セルモ顎間櫛ハ梨子狀口ノ側縁部ヨリ下方門齒々槽隆起ニ向ヒテ漸次消失シ、下縁ハ顎間櫛ノミニヨリテ形成サル、モノ等ナリ (第二圖第 III 型參照) (最後ノ場合ハ二櫛間ニ窩ヲ形成セザルモノヲ以テ程度トナス)。

予ハ上記ノ如キ顎櫛及ビ顎間櫛ノ形成ニツキ北陸頭蓋材料ヲ觀察セシニ、第二表ニ示セルガ如クニテ小兒期ニ於テハ僅カニ一例ナルモ少年期及ビ成人期ニ於テ

第 二 圖  
II. III. ハ Bonin 氏 ヨリ 模 寫 ス



ハ屢々存在セルヲ見タリ (少年期男性一四・三% 女性五〇・〇% 成人期男性二一・〇% 女性一五・〇%)。

第二表 顎間櫛及ビ顎櫛  
(兩側ハ兩側ニアルモノ、一側ハ一側ニアルモノ)

年 齡	n		兩 側		一 側		(兩側十一側)	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂(%)	♀(%)
X - 9	1	5	—	1	—	—	—	1(20.0)
10 - 19	14	10	2	4	—	1	2(14.3)	5(50.0)
20 - X	181	127	30	10	8	9	38(21.0)	19(15.0)
年齡不明	52	21	5	2	1	1	6(11.5)	3(14.3)

以上ニヨリテ、予モ亦、Holl及ビMingazziniノ言ヘルガ如ク、梨子狀口下縁ニ、側縁ヨリ前鼻棘ニ向ヒ進ム一櫛(顎櫛)ト、前鼻棘ヨリ側縁ニ向ヒ進ム一櫛(顎間櫛)ヲ認メ得タルモノナリ。但シ成人ニ於ケル顎櫛及ビ顎間櫛ノ存在ハ一種ノ異常型タルヲ思ハシム。

顎間櫛ガ如何ニシテ梨子狀口下縁ニ形成サル、ヤハ頗ル重大ナル問題ニシテ先輩諸家モ亦概ネコノ點ニ意ヲ集注セシガ如シ。

Mingazziniハ顎間櫛ハ前鼻棘ヨリ起レル、鼻腔ト顎間骨顔面部ヲ境セル或ル特種ノ櫛ナリト論シ、Zuckerlandl, Holl等ハ既ニ述ベタルガ如ク顎間櫛ハ梨子狀口下縁ノ吸收現象ニヨリテ來ルモノナリトセリ。

Zuckerlandlハ、下縁ノ吸收現象ヲ説明スルニ、鼻高徑ノ眼窩部高徑ト下眼窩部高徑トノ長短關係ヲ以テシ、頗ル興味アル結果ヲ得タリ。予モ亦、コレニ倣ヒZuckerlandlノ計測方法ニ順據シ、鼻高徑ヲ計測セリ。

### III、鼻高徑ノ眼窩部高徑及ビ下眼窩部高徑

#### (一)、眼窩部高徑

平均値ニツキ見ルニ、第三表ニ示セルガ如ク、男女性共ニ加齡ト共ニ僅カニ増大セリ。即チ小兒期 20.0 ± 0.32、少年期男性 24.4 ± 0.32、女性 23.3 ± 0.44、成人期男性 25.9 ± 0.11、女性 24.5 ± 0.13 ナリ。成人平均値ハ男性 25.9 ± 0.11、女性 24.5 ± 0.13 ニシテ、男性ハ女性ヨリ僅カニ大ナリ。

眼窩部高徑主數ハ(第四表)小兒期ニアリテハ一八・八一—一九・〇級ノモノ(小兒期男性ハ一例ナルヲ以テ、例數多キ女

第三表 眼窩部高徑

年 齡	性別	n	M±E(M)	σ±E(σ)	V±E(V)	Min-Max
X - 9	♂	1	21.3	—	—	—
	♀	5	20.0±0.32	1.06±0.22	5.30±1.12	18.8—21.7
10 - 19	♂	13	24.4±0.32	1.69±0.22	6.93±0.92	22.5—27.9
	♀	10	23.3±0.44	2.10±0.32	9.01±1.35	19.2—27.1
20 - X	♂	186	25.9±0.11	2.14±0.07	8.26±0.29	20.5—32.1
	♀	130	24.5±0.13	2.13±0.09	8.69±0.36	18.8—29.8

第四表 眼窩部高徑頻度、( )%

年 齡	♂		♀	
X - 9	21.1—21.3	1	18.8—19.0	2(40.0)
	—	—	19.1—20.0	1(20.0)
	—	—	20.1—21.0	1(20.0)
	—	—	21.1—21.7	1(20.0)
	n	1	n	5
10 - 19	22.5—23.0	5(38.5)	19.2—20.0	1(10.0)
	23.1—24.0	—	21.1—22.0	1(10.0)
	24.1—25.0	3(23.1)	22.1—23.0	3(30.0)
	25.1—26.0	3(23.1)	23.1—24.0	2(20.0)
	26.1—27.0	1(7.7)	24.1—25.0	1(10.0)
	27.1—27.9	1(7.7)	25.1—26.0	1(10.0)
	—	—	26.1—27.0	1(10.0)
	n	13	n	10
20 - X	20.5—21.0	1(0.5)	18.8—19.0	1(0.8)
	21.1—22.0	6(3.2)	19.1—20.0	2(1.5)
	22.1—23.0	9(4.8)	20.1—21.0	5(3.8)
	23.1—24.0	22(11.8)	21.1—22.0	11(8.5)
	24.1—25.0	25(13.4)	22.1—23.0	13(10.0)
	25.1—26.0	40(21.5)	23.1—24.0	17(13.1)
	26.1—27.0	35(18.8)	24.1—25.0	30(23.1)
	27.1—28.0	16(8.6)	25.1—26.0	24(18.5)
	28.1—29.0	17(9.1)	26.1—27.0	12(9.2)
	29.1—30.0	11(5.9)	27.1—28.0	10(7.7)
	30.1—31.0	1(0.5)	28.1—29.0	2(1.5)
	31.1—32.1	3(1.6)	29.1—29.8	3(2.3)
	n	186	n	130

値ニ於ケルガ如ク、加齡ト共ニ増大スルモノナリ。

(二)、下眼窩部高徑

下眼窩部高徑モ、亦、加齡ト共ニ増大シ、シカモ増大ノ狀態ハ、眼窩部高徑ニ於ケルヨリ著シ。小兒期、13.14±0.18

少年期男性、20.1±0.48女性、19.2±0.38成人期男性、22.4±0.11女性21.1±0.14ナリ(第五表)。

成人平均値ハ男性22.4±0.11、女性21.1±0.14ニシテ男性ハ女性ヨリ僅カニ大ナリ。

下眼窩部高徑主數ハ(第六表)、小兒期ニ於テハ一二・一—一三・〇級ノモノ最モ多ク、少年期ニ於テハ男性ハ關係明

ラカナラザルモ、女性主數ハ一八・一—一九・〇級ニアリ。成人期ハ兩性共一二・三・一—二四・〇級ノモノ最モ多シ。

### (三)、眼窩部高徑ト下眼窩部高徑トノ差

眼窩部高徑平均値ト下眼窩部高徑平均値トノ差ハ小兒期ニ於テ最大ニシテ(六・

第五表 下眼窩部高徑

年 齡	性別	n	M±E(M)	σ±E(σ)	V±E(V)	Min.-Max.
X - 9	♂	1	13.2	—	—	—
	♀	5	13.1±0.28	0.92±0.19	7.02±1.48	12.1—14.6
10 - 19	♂	13	20.1±0.48	2.56±0.34	12.74±1.69	16.1—24.7
	♀	10	19.2±0.38	1.78±0.27	9.27±1.39	16.7—22.7
20 - X	♂	186	22.4±0.11	2.31±0.08	10.31±0.36	16.1—28.1
	♀	130	21.1±0.14	2.40±0.10	11.37±0.48	14.2—26.8

第六表 下眼窩部高徑頻度、( )%

年 齡	♂		♀	
X - 9	13.1—13.2	1	12.1—13.0	3(60.0)
	—	—	13.1—14.0	1(20.0)
	—	—	14.1—14.6	1(20.0)
	n	1	n	5
10 - 19	16.1—17.0	1(7.7)	16.7—17.0	1(10.0)
	17.1—18.0	2(15.4)	17.1—18.0	1(10.0)
	18.1—19.0	2(15.4)	18.1—19.0	5(50.0)
	19.1—20.0	2(15.4)	19.1—20.0	—
	20.1—21.0	2(15.4)	20.1—21.0	1(10.0)
	21.1—22.0	—	21.1—22.0	1(10.0)
	22.1—23.0	1(7.7)	22.1—22.7	1(10.0)
	23.1—24.0	2(15.4)	—	—
	24.1—24.7	1(7.7)	—	—
	n	13	n	10
20 - X	16.1—17.0	4(2.2)	14.2—15.0	1(0.8)
	17.1—18.0	5(2.7)	15.1—16.0	1(0.8)
	18.1—19.0	6(3.2)	16.1—17.0	4(3.1)
	19.1—20.0	12(6.5)	17.1—18.0	4(3.1)
	20.1—21.0	23(12.3)	18.1—19.0	17(13.1)
	21.1—22.0	32(17.2)	19.1—20.0	20(15.4)
	22.1—23.0	30(16.1)	20.1—21.0	15(11.5)
	23.1—24.0	33(17.7)	21.1—22.0	20(15.4)
	24.1—25.0	18(9.7)	22.1—23.0	17(13.1)
	25.1—26.0	16(8.6)	23.1—24.0	21(16.2)
	26.1—27.0	3(1.6)	24.1—25.0	4(3.1)
	27.1—28.1	4(2.2)	25.1—26.0	4(3.1)
	—	—	26.1—26.8	2(1.5)
	n	186	n	130

第七表 眼窩部高徑、下眼窩部高徑平均差

年 齡	性別	n	眼窩部高徑	下眼窩部高徑	(眼窩部高徑— 下眼窩部高徑)
X — 9	♂	1	21.3	13.2	8.1
	♀	5	20.0	13.1	6.9
10 — 19	♂	13	24.4	20.1	4.3
	♀	10	23.3	19.2	4.1
20 — X	♂	186	25.9	22.4	3.5
	♀	130	24.5	21.1	3.4

九)、成人期ニ於テ最小ナリ(男性三・五、女性三・四)。(第七表)。

眼窩部高徑ト下眼窩部高徑トノ差ニツキ、頻度表ヲ作成セシニ、第八表ニ示セル如ク、男女性共ニ小兒期及ビ少年期ニ於テハ、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ小ナルモノ、及ビ、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ト相等シキモノ等ハ存在セズ、總テ眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルモノ、ミナリキ。差異主數ハ小兒ニ於テハ六・一—八・一級、少年期ハ男性五・一—六・〇級、女性二・一—三・〇級ナリ。

成人ニ於テハ、同ジク第八表ニ示セル如ク、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルモノハ、男性七六・二%、女性七四・八%(差異主數ハ男性三・一—四・〇級、女性二・一—三・〇級)、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ト相等シキモノハ男性一二・二%、女性一七・三%、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ小ナルモノハ男性一一・六%、女性七・九%(差異主數ハ男性一・一—二・〇級、女性一・一—三・〇級)ナリ。

以上ノ結果ヲ Zuckerkandl ノ行ヘル馬來人成人頭蓋成績ト比較スルニ、第九表ノ如ク、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルモノハ馬來人五六・四%ニシテ本邦人北陸頭蓋ノ男性七六・二%、女性七四・八%ニ比シ甚ダ尠キモ、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ小ナルモノハ、馬來人ニ於テ比率甚ダ大ナリ(馬來人三〇・八%、北陸日本人男性一一・六%、女性七・九%)。

眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ト相等シキモノハ馬來人一・二・八%、北陸日本人男性一二・二%、女性一七・三%ニシテ兩者略々相同ジ。

(四)、眼窩部高徑下眼窩部高徑示數 (下眼窩部高徑  
眼窩部高徑 × 100)

眼窩部高徑下眼窩部高徑示數ハ第十表ニ示セルガ如ク、小兒期66.33±0.96、少年期男性82.25±1.51、女性82.80±



第八表 下眼窩部高徑、眼窩部高徑差異頻度、( ) %

年 齡	性別	n	眼窩部高徑>下眼窩部高徑	眼窩部高徑=下眼窩部高徑	眼窩部高徑<下眼窩部高徑
× - 9	♂	1	1	—	—
	♀	5	5	—	—
10 - 19	♂	13	13	—	—
	♀	10	10	—	—
20 - ×	♂	181	138(76.2)	22(12.2)	21(11.6)
	♀	127	95(74.8)	22(17.3)	10(7.9)

142、成人期男性87.51±0.63、女性87.09±0.76ニシテ加齡ト共ニ著シク増大セリ。  
成人平均示數ハ男性87.51±0.63、女性87.09±0.76ニシテ性的差異ヲ認メズ。

年 齡	眼窩部高徑>下眼窩部高徑				眼窩部高徑<下眼窩部高徑			
	♂		♀		♂		♀	
×   9	7.1-8.1	1	5.9-6.0 6.1-7.0 7.1-8.1	1(20.0) 2(40.0) 2(40.0)	—		—	
	n	1	n	5	—		—	
10   19	1.5-2.0	2(15.4)	1.9-2.0	1(10.0)	—		—	
	2.1-3.0	1(7.7)	2.1-3.0	3(30.0)				
	3.1-4.0	2(15.4)	3.1-4.0	1(10.0)				
	4.1-5.0	2(15.4)	4.1-5.0	2(20.0)				
	5.1-6.0	4(30.8)	5.1-6.0	2(20.0)				
	6.1-6.5	2(15.4)	8.1-8.3	1(10.0)				
	n	13	n	10	—		—	
20   ×	1.1-2.0	16(8.8)	1.1-2.0	12(9.4)	1.1-2.0	12(6.6)	1.1-2.0	3(2.4)
	2.1-3.0	17(9.4)	2.1-3.0	18(14.2)	2.1-3.0	5(2.8)	2.1-3.0	3(2.4)
	3.1-4.0	29(16.0)	3.1-4.0	13(10.2)	3.1-4.0	2(1.1)	3.1-4.0	2(1.6)
	4.1-5.0	22(12.2)	4.1-5.0	15(11.8)	3.1-4.0	2(1.1)	3.1-4.0	2(1.6)
	5.1-6.0	9(5.0)	5.1-6.0	11(8.7)	4.1-5.1	2(1.1)	4.1-4.6	2(1.6)
	6.1-7.0	23(12.7)	6.1-7.0	11(8.7)				
	7.1-8.0	6(3.3)	7.1-8.0	8(6.3)				
	8.1-9.0	2(1.1)	8.1-9.0	8(2.4)				
	9.1-10.0	7(3.9)	9.1-10.0	2(1.6)				
	10.1-11.0	3(1.7)	10.1-11.0	1(0.8)				
	11.1-12.0	3(1.7)	11.1-11.4	1(0.8)				
	12.1-13.1	1(0.6)						
	n	138	n	95	n	21	n	10

# 第九表

眼窩部高徑、下眼窩部高徑差異(馬來人)

(Zuckerlandl ニヨル)

n	眼窩部高徑> 下眼窩部高徑	眼窩部高徑= 下眼窩部高徑	眼窩部高徑< 下眼窩部高徑
39	22(56.4%)	5(12.8%)	12(30.8%)

# 第十表 眼窩部高徑、下眼窩部高徑示數

年 齡	性別	n	M±E(M)	σ±E(σ)	V±E(V)	Min.-Max.
X - 9	♂	1	61.90	—	—	—
	♀	5	66.33±0.96	3.15±0.66	4.75±1.00	63.16—71.43
10 - 19	♂	13	82.25±1.51	8.06±1.07	9.80±1.30	69.57—96.00
	♀	10	82.80±1.42	6.71±1.01	8.10±1.21	70.37—92.00
20 - X	♂	186	87.51±0.63	12.8±0.45	14.63±0.51	59.38—123.81
	♀	130	87.09±0.76	12.8±0.54	14.70±0.61	60.00—123.81

兩高徑示數ノ頻度表ヲ作成シ見ルニ、第十一表ニ示セルガ如ク、小兒期ニ於テハ大凡六三・〇—七〇・〇級ノモノ多ク、少年期ハ男性七五・〇—七九・九級、女性九〇・〇—九二・〇級、成人ニアリテハ兩性共ニ八五・〇—八九・九級ノモノ最モ多シ。

以上ノ事實ヨリ見ルニ、小兒ノ眼窩部高徑ハ下眼窩部高徑ニ比シ大ナルモノニシテ、成人ノ眼窩部高徑ハ下眼窩部高徑ニ比シ小ナルモノナリ。而シテ成人ニ於テ特ニ眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルハZuckerlandl及Zollノ言ヘルガ如ク、梨子狀口下緣ノ吸收現象ニ因ルモノニシテ、顎間櫛モ亦吸收現象ニヨリテ形成サル、モノナル可シ。

## 第二節 梨子狀口下緣形狀

### I 文 獻

Topinard、一八七二年、梨子狀口下緣形狀ヲ次ノ如クニ分類セリ。

1、梨子狀口下緣ハ銳緣ニヨリテ圍繞セラル、モノナ

リ。該型ハ歐人特ニ「バスク人」ニ多シ。

2、梨子狀口下緣ハ鈍緣ニシテ前鼻棘モ亦縮少セリ。本型ハ阿弗利加黑奴ニ多シ。

3、鼻截痕ハ二櫛ニ分岐シ、分岐シタル二櫛間ニ小三角形ヲ形成ス。カ、ル形狀ヲ鼻前窩(Fossa praenasalis)ト名

第十一表 眼窩部高徑、下眼窩部高徑示數頻度、( )%

年 齡	♂		♀	
X - 9	60.00-61.90	1	63.16-64.99	2(40.0)
	—	—	65.00-69.99	2(40.0)
	—	—	70.00-71.43	1(20.0)
	n	1	n	5
10 - 19	69.57-69.99	1(7.7)	70.37-74.99	2(20.0)
	70.00-74.99	1(7.7)	75.00-79.99	2(20.0)
	75.00-79.99	6(46.2)	80.00-84.99	2(20.0)
	80.00-84.99	1(7.7)	85.00-89.99	1(10.0)
	85.00-89.99	1(7.7)	90.00-92.00	3(30.0)
	90.00-94.99	1(7.7)	—	—
	95.00-96.00	2(15.4)	—	—
	n	13	n	10
20 - X	59.38-59.99	1(0.5)	60.00-64.99	3(2.3)
	60.00-64.99	7(3.8)	65.00-69.99	6(4.6)
	65.00-69.99	5(2.7)	70.00-74.99	15(11.5)
	70.00-74.99	16(8.6)	75.00-79.99	16(12.3)
	75.00-79.99	21(11.3)	80.00-84.99	17(13.1)
	80.00-84.99	31(16.7)	85.00-89.99	19(14.6)
	85.00-89.99	38(20.4)	90.00-94.99	18(13.8)
	90.00-94.99	18(9.7)	95.00-99.99	10(7.7)
	95.00-99.99	10(5.4)	100.00-104.99	16(12.3)
	100.00-104.99	19(10.2)	105.00-109.99	5(3.8)
	105.00-109.99	14(7.8)	110.00-114.99	1(0.8)
	110.00-114.99	2(1.1)	115.00-119.99	2(1.5)
	115.00-119.99	2(1.1)	120.00-123.81	2(1.5)
	120.00-123.81	2(1.1)	—	—
	n	186	n	130

praenasalis (Topinardノ第三類ニ屬ス)。

3. Gouttière sinienne Platz (Topinardノ第四類ニ屬ス)。

Hovorika ハ下縁形狀ヲ四類ニ分類セリ。

1. Forma anthropina

付ケ、「メラニシヤ人及ビ」ボ  
リネシヤ人ニ多シ。

4. 顎間骨顔面部ハ前方へ

傾斜シ、鼻腔トノ境界縁ハ消  
失ス。而シテ鼻腔ト顎間骨顔

面部ハ人類猿ニ屢々見ル如キ

斜面ヲ形成ス。Topinardハカ

ル形狀ノモノヲ「Gouttière

sinienne Platz」ト言ヘリ。

Ottolenghiモ亦大體「Topi-

nardノ分類ニ從ヒ次ノ三形狀

ヲ別チタリ。

1. Forma infantilis (Topi-

nardノ第二類ニ屬ス)。

2. Unvollständige Fossa

2. *Forma infantilis*

3. *Fossa praenasalis*

4. *Sulcus praenasalis*

本分類中ノ *Sulcus praenasalis* ハ後述スル所ノ Mingazzini 及ビ Abramov 等ノ *Clivus nasopalveolaris* ニ該當スルモノナリ。

Holl ハ梨子狀口下縁ニ顎櫛及ビ顎間櫛ヲ別チ、下縁形狀ヲ三類ニ區別セリ。

1、顎間櫛ト顎櫛ハ相連結シ、銳縁トナリテ鼻腔ヲ圍繞セルモノ。

2、顎間櫛ト顎櫛ハ相連結セズ、二櫛間ニ溝ヲ形成セルモノ (*Sulcus praenasalis*)。

3、下縁ヲ缺除セルモノニシテ、顎間櫛ヲ缺キ、顎櫛ノミヨリナリ、前鼻坦面 (*Planum praenasale*) 或ハ鼻前窩ヲ形成ス。

○ Mingazzini ハ Topinard ノ分類ヲ的確ナラズトシ次ノ分類ヲ試ミタリ。

1. *Forma anthropina* 鼻腔ガ銳縁ニヨリ圍マル、形狀ナリ。

2. *Forma infantilis* 境界縁ガ全ク形成サレザルカ又ハ形成度弱キタメ、鼻腔ガ鈍縁ニヨリ圍マル、形狀ナリ。

3. *Fossa praenasalis* 境界縁ハ鼻截痕ト連結セズ、却テ後下方甲介前端ニ向ヒ進行ス。一方鼻截痕ハ中央前鼻棘ニ向ヒ進行セルタメ、コレ等二櫛間ニ窩ヲ形成ス。

4. *Clivus nasopalveolaris* 下縁固有ノ境界縁ノ形成ヲ見ズ、ノミナラズ鼻截痕ハ前鼻棘ニ向ヒ進マズ、却テ下方ニ向ヒ進行シ、門齒或ハ犬齒々槽隆起ノ部ニテ消失ス。タメニ鼻腔ト顎間骨顔面部トハ何等ノ境界ヲ見ズ、斜面ヲ形成セルモノナリ。Mingazzini ニヨレバ本型ハ顎突出大ナルモノニアリテ一層明ラカナリ。

Thomas ハ下縁ニ三形狀ヲ分テリ。

1、下縁ガ單ニ鈍ナルモノ。

2、下縁鈍ナルノミナラズ且ツ幅廣キモノ(幅徑一―四耗ヲ有スルコトアリ)。

3、下縁境界線ハ二線ニ分岐シ、分岐セル二櫛間ニ小三角形ヲ形成セルモノ(鼻前窩)。Thomas ニヨレバ三角形内ニ猶ホ一斜走線アラハレ、三角形ヲ二分シ、ノミナラズ該斜走線ガ却テ鼻腔ト顔面部ヲ境スルコトアリ。カ、ルモノヲ特ニ重複縦溝(doppelte vertikale Rinne)トシテ記載セリ。

Abramov、Topinard 及 Mingazzini ノ分類ヲ參酌シ、次ノ下縁形狀ヲ分類セリ。

1、Forma anthropina 鼻腔ハ銳縁ニヨリ圍マレ、前鼻棘ノ發育強シ。

2、Forma infantilis 下縁ハ鈍縁ニシテ且ツ滑カナリ。本型ハ小兒及ビ女性ニ多シ。

3、Fossa praenasalis 下縁ハ二櫛ニ分岐シ、分岐セル二櫛間ニ窩ヲ形成スルモノニシテ、コレヲ更ニ二種ニ區別セリ。即チ一ハ上部境界線ヲ見得ルモ下部境界線ヲ殆ンド見得ザルモノニシテ一見 Forma anthropina ト混同シ易ク、歐人頭蓋ニ多シ。他ハ上部境界線、下部境界線共ニヨク形成サル、モノニシテ鼻前窩ノ定型の形成ヲ見ルモノナリ。

4、Clivus nasolveolaris 分岐セル二櫛間ニ形成サレタル窩ノ甚ダ深く、シカモ上下境界線ノ平滑ナル時ハ、鼻腔ハ何等ノ境界ナク顎間骨顔面部ニ移行ス、カ、ルモノヲ廣義ニ於ケル Clivus nasolveolaris トス。コレニ猶ホ次ノ二形狀アリ。

a、鼻腔ト門齒骨顔面部ノ間ニ猶ホ僅カニ境界線ノ存スルモノニシテ、コレヲ狹義ニ於ケル Clivus nasolveolaris ト云フ。

b、鼻腔ト門齒骨顔面部トノ境界線ハ全ク缺如シ、鼻腔ハ直チニ門齒骨顔面部ニ移行ス。加フルニ前鼻棘發育弱キ時ハ、其ノ狀全ク人類猿樣形狀ヲ呈ス、カ、ルモノヲ Affenrinne ト云フ。

以上諸學者ノ下縁形狀分類ヲ通覽スルニ、説ク所ハ略々一致スルモノアルヲ知ル。唯分類方法タルヤ或ハ簡ニ或ハ

煩ニシテ、何レノ分類ヲ採用ス可キヤ初學者ノ多少迷フ所ナシトセズ。然レドモ予ノ日本人頭蓋ニツキ觀察セシ所ヨ

第十二表 北陸日本人梨子狀口下緣形狀、( )%

年 齡	性別	n	Forma anthropina	Forma infantilis	Fossa praenasalis	Clivus nasoalveolaris
X — 9	♂	1	—	1	—	—
	♀	5	—	5	—	—
10 — 19	♂	14	6(42.9)	5(35.7)	2(14.3)	1(7.1)
	♀	10	4(40.0)	6(60.0)	—	—
20 — X	♂	181	110(60.8)	39(21.5)	24(13.3)	8(4.4)
	♀	127	66(52.0)	32(25.2)	25(19.7)	4(3.1)

コレ等ノ外ニ左右ノ形不同ニシテ分類シエザルモノ年齢別20歳以上ノモノニ於テ♂5例、♀4例アリ。

第十三表 人種頭蓋梨子狀口下緣形狀、( )%

人 種	報 告 者	n	Forma anthropina	Forma infantilis	Fossa praenasalis	Clivus nasoalveolaris
Malayen	Zuckerlandl	112	—	—	39(34.8)	—
Tirolern u. Kärntnern	Holl	52	16(30.8)	14(26.9)	14(26.9)	8(15.4)
Europäer	Abramov	—	—(75.0)	—	—	—
Mongolen	Abramov	—	—(50.0)	—(10.0)	—	—
Ural-altaiem	Abramov	—	—	—	—(18.7)	—
Russlander	Abramov	—	—	—	—(7.9)	—(5.2)
Italiener	Mingazzini	273	202(74.0)	27(9.9)	23(8.4)	21(7.7)
Japaner	Nii	308	176(57.1)	71(23.1)	49(15.9)	12(3.9)

リシテ云ハシムレバ Mingazzini 及ビ Abramov ノ説ク所甚ダ妥當ニシテ直チニ本邦人頭蓋ニ適用シ得ル感アリ。由テ予ハ Mingazzini 及ビ Abramov ノ分類ヲ採用シ、本邦人頭蓋ヲ觀察シ、以テ彼我ノ差異ヲ人種解剖學的ニ比較考察セリ。

## II 邦人頭蓋觀察成績

第十二表ニ見ル如ク、成人ニアリテハ銳緣ニヨリ圍マル、梨子狀口下緣形狀即チ Forma anthropina 最も多ク(五七・一%)、亞テ鈍緣ノモノ即チ Forma infantilis ナリ(男性二一・五%、女性二五・二%)。Fossa praenasalis 一五・九%、Clivus nasoalveolaris 三・九%ニシテ、コレ等形狀ハ甚ダ尠ク、本邦人ニアリテハ一ノ異常型タルヲ思ハシム。性的ニ見ルニ下緣形狀ノ鈍緣ナルモノ(Forma infantilis)、及ビ鼻前窩ハ女性ノ

方、男性ヨリ多ク (Forma infantilis 男性二一・五%、女性二五・二%、Fossa praenasalis 男性一三・三%、女性一九・七%)、下縁ノ鋭縁ナルモノハ (Forma anthropina) 男性ノ方女性ヨリ多シ (男性六〇・八%、女性五二・〇%)。

小兒及ビ少年期ニアリテハ下縁形状ノ鈍縁ナルモノ成人ニ比シ頗ル多ク、小兒期ハ調査材料ノ全部ガコレニ屬シ、少年期ハ四五・八%ニ於テ存在セルヲ見タリ。

以上予ノ成績ト諸家ノ成績ト比較スルニ第十三表ノ如シ。

#### Forma anthropina

本型ハ Abramov ニヨレバ「フインランド」ヲ如外セル、歐洲ロシヤノ北西部ニ甚ダ多ク、「ウラルアルタイ人」、「アメリカ人、濠洲人及ビ布哇人」(「サンドウィッチ」)ニ最モ尠シ。

本邦人比率ハ五七・一%ニシテ Abramov ノ調査ニヨル歐洲人ノ七五・〇%ヨリ甚ダ尠キモ、歐洲人ニテモ Holi ニヨル「チロール人及ビ「ケルント人」ノ二〇・八%ヨリ甚ダ多ク、蒙古人ノ五〇・〇%ト略々相似タリ。

#### Forma infantilis

Abramov ニヨレバ本型ハ「ウラルアルタイ人、中部アジア人」ニ多ク、「ロシヤ人」ニテハ北西部人ニ比率數尠シ。「バプア人」、「アメリカ人、蒙古人」ノ順序ニテ存在率減少シ、歐人ニテ最モ少ナシ。

本邦人存在率ハ二三・一%ニシテ Abramov ノ調査セル蒙古人(一〇・〇%)、及ビ Mingazzini ノ調査ニナル伊太利人(九・九%)ヨリ著シク大ナルモ Holi ニヨル「チロール人及ビ「ケルント人」ノ二六・九%ト比率略々相同ジ。

#### Fossa praenasalis

Zuckerlandl ハ鼻前窩ノ定型の形成ハ歐人以外ノ人種ニノミ見ル特徴ナリト言ヒ、Topinard ト同様、馬來人ニ頗ル多シト言ヘリ。Abramov ニヨレバ本型ハ「アジア人、濠洲人、大洋洲人」、「アメリカ土人」、「アフリカ人及ビ「トルコ、タタール族」ニ多ク、Forma anthropina ト相反シ、歐洲ヨリ中央アジア」ニ向ヒ存在率多シ。

第十四表 近畿日本人及ビ樺太アイヌノ梨子狀口下縁形狀、( )%

頭 蓋 別	報 告 者	n	Forma anthropina	Forma infantilis	Fossa praenasalis	Clivus nasolabialis
近 畿 頭 蓋	(宮 本)	50	36(72.0)	11(22.0)	2(4.0)	1(2.0)
樺太アイヌ	(平 井)	—	—	—(90.0)	—(6.7)	—(3.3)
北 陸 頭 蓋	(二 井)	308	176(57.1)	71(23.1)	49(15.9)	12(3.9)

本邦人ニテハ比率數一五・九%ニシテHニ調査ノ「チロール人」、「ケルト人」(二六・九%)及「Zuckerland」調査ノ馬來人(三四・八%)ヨリハ甚ダ尠ク、「ウラルアルタイ人」ノ一八・七%ト略々相似タリ。

#### Clivus nasolabialis

Abramov ニヨレバ本型モ亦、「Forma infantilis」及「Fossa praenasalis」ト同ジク、歐洲ヨリ中央アジアニ向ヒテ存在比率大ナリ。

本邦人比率ハ三・九%ニシテHニヨル「チロール人」、ケルト人ノ二五・四%、及「Mingazzini」ニヨル伊太利人ノ七・七%ヨリハ甚ダ小ニシテAbramov ニヨル「ロシヤ人」ノ五・二%ト略々相同ジ。

近畿日本人頭蓋ニツキ調査セル宮本氏成績及ビ樺太アイヌ人頭蓋ニツキ行ヘル平井氏ノ成績ハ、第十四表ノ如クニテ、北陸頭蓋成績ト比較スルニ次ノ如シ(宮本氏及ビ平井氏ハHovorkaノ分類ニ從ヘリ。Hovorka ニヨル分類中ノSulcus praenasalis、Mingazzini及ビAbramov分類ノClivus nasolabialisニ該當ス)。

北陸日本人ハ、鋭縁ニヨリ境界サル、梨子狀口下縁形狀ハ近畿日本人ヨリ甚ダ尠ク(北陸五七・一%、近畿七二・〇%)、鼻前窩形成度ハ北陸日本人ノ方、近畿日本人ヨリ大ナリ(北陸一五・九%、近畿四・〇%)。之ノ結果ヨリセバ北陸日本人梨子狀口下縁形狀ハ近畿日本人ヨリモ多少原始的ナルヤニ思惟セラル。Forma infantilis及ビClivus nasolabialisハ北陸人、近畿人共ニ存在比率相似タリ。

樺太アイヌ人ハ、Forma anthropina 絶無ニシテ、鈍縁ノ梨子狀口下縁形狀頗ル多ク(九〇・〇%)、近畿日本人及ビ



北陸日本人トノ差甚ダ著明ナリ。從ツテ樺太アイヌ人ハ北陸日本人ヨリ猶ホ一層原始的ナリト言フ可シ。

### 第三節 鼻前窩 (Fossa praenasalis)

鼻前窩ノ形狀ガ、人種のニ差異ヲ示シ、又個人的ニモ形狀差異アルハ、既ニZuckerlandl, Holl, Klattsch等ノ記述セル所ナルモ、一九二二年Boninハ更ニ、コレノ精細ナル人種解剖學的研究ヲ企テタリ。

斯ノ如ク多數ノ學者ニヨリテ、其ノ形態ヲ觀察サレタルヲ以テ、鼻前窩ヲ形成セル櫛ノ名稱ニツキテモ諸家ノ說、各々異ナリ、極メテ煩雜ナルヲ見ル。

Hollハ、既ニ述ベタルガ如ク梨子狀口下縁ニ二櫛即チ顎櫛ト顎間櫛ヲ區別セリ。而シテコレ等二櫛間ニ鼻前窩形成サル、モノナリトス。

ZuckerlandlハHollノ二櫛ノ外ニ、顎間櫛ノ後方ニ於テ、Crista nasodentalisナルモノヲ區別セリ。Zuckerlandlニヨレバ顎櫛ト顎間櫛間ニ於ケル窩ハFossa praenasalisニシテ、Crista nasodentalisト顎間櫛間ニ形成サル、窩ハFossa intranasalisナリ。

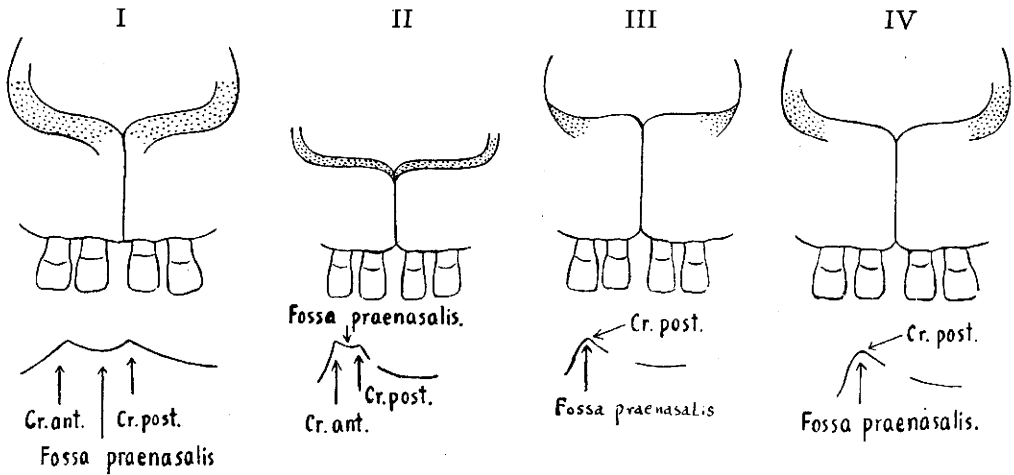
Klattschハ鼻前窩ヲ形成セル櫛ニツキテ、Margo infranasalis(hintere Crista ≡ Crista intermaxillaris von Holl)トCrista praenasalis (vordere Crista ≡ Crista maxillaris von Holl)ヲ區別セリ。歐人ニアリテハ、鼻前窩ハMargo infranasalisニヨリテ、鼻腔ト顎間骨顔面部トハ境界サル、モノ多ク、濠洲人及ビ「タスマニヤ人ニアリテハCrista praenasalisニヨリテ、鼻腔ト顎間骨顔面部トノ境界サル、モノ多シ。猶ホKlattschハMargo infranasalisニ局所解剖學の考察ヲ加ヘ、該縁ハ常ニ下甲介前端ニ向ヒ進ムモノナリト言ヘリ。

BoninハB. N. A.ハCrista nasalisハCrista nasalis media (中鼻櫛)、ZuckerlandlハCrista nasodentalisハCrista nasalis posterior (後鼻櫛)、Hollハ顎櫛ヲCrista nasalis anterior (前鼻櫛)ト名付ケタリ。

Charlotteハ梨子狀口下縁ニ三櫛ヲ區別セリ。即チ側櫛、(Crista lateralis)、棘櫛(Crista spinalis)及ビ甲介櫛

### 第三圖

(Bonin = ヨル)



(Crista turbinalis) ナリ。

以上ノ如ク梨子狀口下縁ノ櫛ノ名稱ヲ見ルニ、諸學者ノ記載セル所ハ頗ル多種多樣ナリ。予ハコレ等ノ分類中、最モ簡ニシテ最モ要ヲ得タリト思ハル、Boninノ分類セル櫛ノ名稱ニ從ヒタリ。即チ前鼻櫛、中鼻櫛及ビ後鼻櫛ノ三櫛ナリ。

Boninハ以上ノ三櫛ヲ梨子狀口下縁ニ分チタル後、鼻前窩ヲ形成セル頭蓋ノ鼻腔ト顎間骨顔面部トノ境界ガ、コレ等三櫛中ノ何レノ櫛ニヨルコト多キカラ、人種解剖學的ニ比較考察セリ。

予モ亦Boninノ分類セル鼻前窩ノ三形狀ニ順據シ、本邦人ノ鼻前窩ヲ表ハセル頭蓋ニ就キテ、コレヲ調査セリ。

Boninノ分類セル鼻前窩ノ三形狀ハ次ノ如シ。

I型、後鼻櫛ハ下甲介前端ニ向ヒ延ビ、前鼻櫛ハ前鼻棘ニ向ヒ發育ス。(但シ前鼻櫛ハ前鼻棘ニ接續セズ、前鼻棘根部ニテ自然消失ス)。

而シテコレ等二櫛間ニ窩ヲ形成セルモノナリ。本型ニアリテハ鼻腔ト顔面部ノ境界ハ前鼻櫛ニヨル。(第三圖第I型參照)。

II型、前鼻櫛ハ正中線ニ向ヒ進ミ、前鼻棘ト結合ス。後鼻櫛ハ側方下甲介前端ニ向ヒ進ム、而シテコレ等二櫛間ニ窩ヲ形成ス。I型ト同じク本型モ、鼻腔ト顔面部境界ハ前鼻櫛ニヨル。(第三圖第II型參照)。

III型、鼻櫛ハ正中線ニ向ヒ進マズ、下方ニ延ビ、側部門齒々槽隆起

部ニ自然消失ス。後鼻櫛ハ側方ニ向ヒ、梨子狀口ノ略々下側隅ニテ前鼻櫛ト接續ス。而シテコレ等二櫛間ニ窩ヲ形成セルモノナリ。本型ニアリテハ鼻腔ト顔面部ノ境界ハ後鼻櫛ニヨル。(第三圖第III型參照)。

以上ハ Bonin ニヨリ分タレタル、鼻前窩ノ三形狀ナルモ、予ハ本邦人頭蓋觀察中、屢々、次ノ如キ形狀ヲナセル鼻前窩ヲ目撃セリ。由テ予ハコレヲ第四型トシテ追加分類セリ。

IV型、前鼻櫛ト後鼻櫛ハ連結セズ。前鼻櫛ハ正中線ニ向ヒ進ムモ略々下緣中央ニ於テ自然消失ス。後鼻櫛ハ側方下甲介前端ニ向ヒ進ム。而シテコレ等二櫛間ニ窩ヲ形成ス。本型ハ Bonin ニヨル第II型ト相同ジク、鼻腔ト顔面部境界ハ後鼻櫛ニヨル。(第三圖第IV型參照)。

#### 北陸頭蓋鼻前窩形狀觀察成績

第十五表ニ示セル如ク、小兒期ニアリテハ鼻前窩ハ一例モ存セズ。少年期ニ於ケル鼻前窩ハ二例共ニ第IV型ニ屬シ、鼻腔ト顔面部境界ハ後鼻櫛ニヨレリ。

成人期ニアリテハ第II型最モ多クシテ、鼻腔ト顔面部境界ハ前鼻櫛ニヨル(男性四一・七%、女性五〇・〇%)。第I型即チ鼻腔ト顔面部間境界ノ前鼻櫛ニヨルモノハ最モ尠ク、男女性共ニ比率四・二%ナリ。

第II型ニ亞デ第IV型多ク(男性三三・三%、女性二九・二%)、亞デ第III型ナリキ(男性二〇・八%、女性一六・七%)。年齡不明ノモノニテハ兩性共ニ第IV型最モ多シ(男性八三・三%、女性六〇・〇%)。

第十五表 鼻 前 窩、( )%

年 齡	性別	調査數	I 型	II 型	III 型	IV 型
10 - 19	♂	2	—	—	—	2
	♀	—	—	—	—	—
20 - X	♂	24	1(4.2)	10(41.7)	5(20.8)	8(33.3)
	♀	24	1(4.2)	12(50.0)	4(16.7)	7(29.2)
年齡不明	♂	6	—	1(16.7)	—	5(83.3)
	♀	5	—	1(20.0)	1(20.0)	3(60.0)
計	♂	32	1(3.1)	11(34.4)	5(15.6)	15(46.9)
			12(37.5)		20(62.5)	
	♀	29	1(3.4)	13(44.8)	5(17.2)	10(34.5)
			14(48.3)		15(51.7)	

Klatsch 及 Bonin ニヨレバ濠洲人、タスマニヤ人、黒奴、「ブッシュマン」、馬來人及ビ「ラプランド人等ニアリテハ第I型又ハ第II型最モ多ク、鼻腔ト顔面部境界ハ前鼻櫛ニヨル。蒙古人及ビ歐洲人ニアリテハ第III型多ク、後鼻櫛ニヨリテ鼻腔ト顔面部ハ境界サル。

予モ亦 Bonin ニ倣ヒ、I + II 型ヲ前鼻櫛ニヨリ鼻腔ト顔面部ノ境サル、モノトシ、III + IV 型ヲ後鼻櫛ニヨリ鼻腔ト顔面部ノ境サル、モノナリトシ、コレ等ノ頻度ヲ日本人合計ニツキ見タルニ同ジク第十五表ニ示セル如クニテ、本邦人頭蓋ニアリテモ蒙古人ト相同ジク後鼻櫛ニヨリ鼻腔ト顔面ノ境サル、モノハ、前鼻櫛ニヨレルモノニ比シ甚ダ多キヲ見タリ。

該關係ハ特ニ男性ニ於テ明ラカナリ（後鼻櫛ヲ境界トセルモノ男性六二・五%、女性五一・七%、前鼻櫛ヲ境界トセルモノ男性三七・五%、女性四八・三%）。

#### 第四節 頭蓋型ト梨子狀口下緣形狀

Abramov ハ廣徑頭蓋ニハ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノ多ク、長徑頭蓋ニハ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノ多シト云ヒ、又 Holl ハ頭蓋型ト鼻前窩トノ間ニ何等ノ關係ナキモノナリト言ヘリ。

予ノ觀察ニヨルニ、第十六表ノ如ク、Forma anthropina ハ平均頭蓋示數男性七七・一〇、女性七八・六一、Forma infantilis ハ平均頭蓋示數男性七五・八〇、女性七七・五〇、Fossa praenasalis ハ平均頭蓋示數男性七六・八三、女性七六・八九、Clivus nasolveolaris ハ平均頭蓋示數男性七五・八七、女性七四・六九ニシテ梨子狀口下緣形狀異ナルト雖モ、Clivus nasolveolaris ヲ有スル女性頭蓋ヲ除ク他ハ、何レモ中徑頭蓋ナリ。

第十六表 梨子狀口下緣形狀ト頭蓋型  
(平均示數)トノ關係

下緣形狀	性別	例數	頭蓋長幅指數
			平均示數
Forma anthropina	♂	95	77.10 (Mesocephal)
	♀	58	78.61 (Mesocephal)
Forma infantilis	♂	38	75.80 (Mesocephal)
	♀	28	77.50 (Mesocephal)
Fossa praenasalis	♂	21	76.83 (Mesocephal)
	♀	22	76.89 (Mesocephal)
Clivus nasolveolaris	♂	7	75.87 (Mesocephal)
	♀	4	74.69 (Dolichocephal)

次ニ、梨子狀口ノ下緣形狀各種ガ、各頭蓋型ニ存在スル頻度ニツキ、觀察セルニ、第十七表ニ示セルガ如クニテ、

第十七表 梨子狀口下緣形狀ト頭蓋型(長幅示數頻度)トノ關係、( )%

下緣形狀	性別	例數	Hyperdol- ichocephal	Dolicho- cephal	Mesozephal	Brachycephal	Hyper- brachycephal
Forma anthropina	♂	95	2( 2.1)	23(24.2)	52(54.7)	17(17.9)	1(1.1)
	♀	58	—	11(19.0)	28(48.3)	17(29.3)	2(3.4)
Forma infantilis	♂	38	—	15(39.5)	20(52.6)	2( 5.3)	1(2.6)
	♀	28	1( 3.6)	6(21.4)	16(57.1)	3(10.7)	2(7.1)
Fossa praenasalis	♂	21	—	8(38.1)	10(47.6)	3(14.3)	—
	♀	22	1( 4.5)	6(27.3)	10(45.5)	4(18.3)	1(4.5)
Clivus nasolaeolaris	♂	7	1(14.3)	1(14.3)	4(57.1)	1(14.3)	—
	♀	4	—	1(25.0)	3(75.0)	—	—

Abramov ノ調査結果ト全ク相反セルヲ見タリ。即チ長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノハ男性二四・二%、女性一九・〇%、長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノハ、男性三九・五%、女性二一・四%ニシテ、男女性共ニ長徑頭蓋ニシテ下緣ノ鈍緣ナルモノハ長徑頭蓋ニシテ下緣ノ銳緣ナルモノニ比シ大ナリ。猶ホ廣徑頭蓋ニシテ下緣ノ銳緣ナルモノハ(男性一七・九%、女性二九・三%)、廣徑頭蓋ニシテ下緣ノ鈍緣ナルモノヨリ(男性五・三%、女性一〇・七%)著シク多シ。

鼻前窩ハ、他ノ下緣形狀ト相同ジク、男女性共ニ中徑頭蓋ナルコト最も多キヲ見ル(男性四七・六%、女性四五・五%)。

#### 第五節 上顔面型ト梨子狀口下緣形狀

Abramov 及 J. Kollmann ハ狹上顔面型ニハ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノ多ク、廣上顔面型ニハ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノ及ビ鼻前窩形成多シト云ヘリ。

予ノ調査ニヨルニ、第十八表ニ示スガ如クニシテ、Forma anthropina ハ平均上顔面示數男性女性共ニ五一・七五、Forma infantilis ハ平均示數男性五〇・五二、女性五一・二二、Fossa praenasalis ハ平均示數男性五一・七〇、女性五〇・一一、Clivus nasolaeolaris ハ平均示數男性五〇・八二、女性五〇・四二ニシテ何レノ梨子狀口下緣形狀ニアリテモ、平均上顔面示數ハ

第十八表 梨子狀口下緣形狀ト上顔面型(平均示數)トノ關係

下緣形狀	性別	例數	上顔面指數
			平均示數
Forma anthropina	♂	72	51.75 (Mesēn)
	♀	30	51.75 (Mesēn)
Forma infantilis	♂	26	50.52 (Mesēn)
	♀	20	51.22 (Mesēn)
Fossa praeasalis	♂	16	51.70 (Mesēn)
	♀	10	50.22 (Mesēn)
Clivus nasoalveolaris	♂	7	50.82 (Mesēn)
	♀	4	50.42 (Mesēn)

Mesēn ニ屬ス。

次ニ梨子狀口ノ下緣形狀各種ガ各上顔面型ニ存在スル頻度ニツキ觀察セルニ、第十九表ニ示スガ如ク、上顔面型 Mesēn ナル時ハ、下緣ハ銳緣ノモノ多ク(男性五八・三%、女性四六・七%)、Euryēn ナル時ハ下緣ノ鈍緣ナルモノ(男性四二・三%、女性五〇・〇%)、及ビ下緣ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ(男性四三・八%、女性五〇・〇%)等多クシテ、Abramov 及ビ Kollmann ノ説ハ本邦人頭蓋ニアリテモ略々適用シ得ルモノナルヲ思ハシム。

## 第六節 鼻型ト梨子狀口下緣形狀

Abramov ハ梨子狀口下緣銳緣ナルモノハ狹鼻型ノ場合多シト云ヒ、Zuckerkandi 及ビ Schaffhausen ハ鼻前窩ハ扁平鼻型ニ多シト云ヘリ。

予ノ調査ニヨルニ、第二十表ノ如ク、Forma anthropina ハ平均鼻示數男性四八・八七、女性五〇・八〇、Forma infantilis ハ平均鼻示數男性五〇・〇八、女性五二・〇一、鼻前窩ハ平均鼻示數男性五〇・三二、女性五二・七九ニシテ、男女兩性共ニ、Forma anthropina ハニ等

第十九表 梨子狀口下緣形狀ト上顔面型(示數頻度)トノ關係( )%

下緣形狀	性別	例數	Hyper-euryēn	Euryēn	Mesēn	Leptēn	Hyper-leptēn
Forma anthropina	♂	72	1(1.4)	19(26.4)	42(58.3)	9(12.5)	1(1.4)
	♀	30	1(3.3)	10(33.3)	14(46.7)	5(16.7)	—
Forma infantilis	♂	26	1(3.8)	11(42.3)	12(46.2)	2( 7.7)	—
	♀	20	—	10(50.0)	5(25.0)	5(25.0)	—
Fossa praeasalis	♂	16	—	7(43.8)	6(37.5)	3(18.8)	—
	♀	10	—	5(50.0)	4(40.0)	1(10.0)	—
Clivus nasoalveolaris	♂	7	—	3(42.9)	4(57.1)	—	—
	♀	4	—	2(50.0)	1(25.0)	1(25.0)	—

ノ内ニテ、鼻示數最小ナルヲ見ル。

第二十表 梨子狀口下緣形狀ト鼻型  
(平均示數)トノ關係

緣 形 狀	性別	例 數	鼻 長 幅 指 數
			平 均 示 數
Forma anthropina	♂	99	48.87 (Mesorrhinie)
	♀	60	50.80 (Mesorrhinie)
Forma infantilis	♂	39	50.08 (Mesorrhinie)
	♀	28	52.01 (Chamaerrhinie)
Fossa praenasalis	♂	21	50.32 (Mesorrhinie)
	♀	23	52.79 (Chamaerrhinie)
Clivus nasopalveolaris	♂	8	50.75 (Mesorrhinie)
	♀	4	55.47 (Chamaerrhinie)

梨子狀口下緣形狀各種ガ各鼻型ニ存在セル頻度ニツキ見ルニ、第二十一表ニ示スガ如ク、長鼻型及ビ中鼻型ハ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノ多ク(長鼻型ニシテ下緣ノ銳緣ナルモノ男性三七・四%、女性一三・三%、中鼻型ニシテ下緣ノ銳緣ナルモノ男性三七・四%、女性三三・三%)、扁平鼻型ハ下緣ノ鈍ナルモノ及ビ、下緣ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ甚ダ多シ(扁平鼻型ニシテ下

緣ノ鈍ナルモノ男性四一・〇%、女性三九・三%、扁平鼻型ニシテ鼻前窩ヲ形成セルモノ、男性三八・一%、女性五二・三%)。

以上ニヨリ見ルニ、本邦人頭蓋ニアリテモ、Abramov 及 Zuckerkandlノ言ヘルガ如ク、長鼻型ハ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノ多ク、扁平鼻型ハ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノ及ビ下緣ニ鼻前窩形成サル、モノ多シト云ヒ得ベシ。

# 第七節 顔面角ト梨子狀口下緣形狀

第二十一表 梨子狀口下緣形狀ト鼻型(示數頻度)トノ關係 (%)

下 緣 形 狀	性別	例 數	Leptorrhinie	Mesorrhinie	Chamaerrhinie	Hyperchamaerrhinie
Forma anthropina	♂	99	37(37.4)	37(37.4)	20(20.2)	5( 5.1)
	♀	60	8(13.3)	20(33.3)	31(51.7)	1( 1.7)
Forma infantilis	♂	39	9(23.1)	13(33.3)	16(41.0)	1( 2.6)
	♀	28	3(10.7)	11(39.3)	11(39.3)	3(10.7)
Fossa praenasalis	♂	21	5(23.8)	7(33.3)	8(38.1)	1( 4.8)
	♀	23	3(13.0)	5(21.7)	12(52.3)	3(13.0)
Clivus nasopalveolaris	♂	8	3(37.5)	1(12.5)	4(50.0)	—
	♀	4	—	1(25.0)	2(50.0)	1(25.0)

第二十二表 顔 面 角

年 齡	性別	n	M±E (M)	♂±E (♂)	V±E (V)	Min.-Max.
20-×	♂	132	86°±0.17	2.85±0.12	3.32±0.13	79°-95°
	♀	53	84°±0.24	2.59±0.17	3.09±0.20	78°-90°

第二十四表 顔面角分類 ( ) %

年 齡	性別	n	Prognathie	Orthognathie	Hyper-Orthognathie
20-×	♂	132	16(12.1)	109(82.6)	7(5.3)
	♀	53	16(30.2)	37(69.8)	—

第二十五表 梨子狀口下縁形状ト顔面角(平均値)トノ關係

下縁形状	性別	例 數	顔 面 角	
			平 均 示 數	
Forma anthropina	♂	73	86° (Orthognathie)	
	♀	29	84° (Orthognathie)	
Forma infantilis	♂	29	85° (Orthognathie)	
	♀	14	84° (Orthognathie)	
Fossa praeanasalis	♂	18	85° (Orthognathie)	
	♀	8	84° (Orthognathie)	
Clivus nasolabialis	♂	7	85° (Orthognathie)	
	♀	1	85° (Orthognathie)	

第二十三表 人種頭蓋顔面角 (Mollisonニヨル)

人 種	顔面角
Blindner	87°
Chinesen	83°
Dschagganeger	79°
Kamerunneger	78°
Papua	77°
Australier	77°

第二十二表ハ予ノ調査セル成人顔面角ニシテ、男性86°±0.17、女性84°±0.24ナリ。コレヲMollisonニヨル他人種顔面角ト比較スルニ第二十三表ノ如クニテ、本邦人北陸頭蓋顔面角ハ「カメルン黑人」、「バプア人及ビ濠洲人等ヨリハ甚大ナリ。即チコレ等人種ヨリ顎突出スルコト尠キモノナルヲ知ル。猶ホコレヲPrognathie, Orthognathie及ビHyperorthognathieノ三類ニ區別セシニ第二十四表ニ示スガ如ク、男女性共ニOrthognathie最モ多シ(男性八二・六%、女性六九・八%)。

顔面角ト梨子狀口下縁形状トノ關係ハ第二十五表ノ如ク、何レノ梨子狀口下縁形状ニアリテモ、平均顔面角ハ八十五度内外ニシテ、Orthognathieニ屬セルヲ見ル。

Zuckerlandlニヨレバ鼻前窩ハ顎突出大ナルモノニ多シト云ヒ、又Abramovハ顎突出小ナルモノニForma anthropina多キコトヲ述ベタリ。



第二十六 表 梨子狀口下縁形狀ト顔面角(頻度)トノ關係( )%

下縁形狀	性別	例 數	Prognathie	Orthognathie	Hyper-Orthognathie
Forma anthropina	♂	73	5( 6.8)	66(90.4)	2( 2.7)
	♀	29	10(34.5)	19(65.5)	—
Forma infantilis	♂	29	6(20.7)	20(69.0)	3(10.3)
	♀	14	4(28.6)	10(71.4)	—
Fossa praeasalis	♂	18	3(16.7)	14(77.8)	1( 5.6)
	♀	8	2(25.0)	6(75.0)	—
Clivus nasoalveolaris	♂	7	2(28.6)	5(71.4)	—
	♀	1	—	1	—

予ノ調査ニヨルニ、第二十六表ノ如クニテ、何レノ梨子狀口下縁形狀ニ於テモ Orthognathie ナルコト最多シ。然レドモ猶ホ詳細ニ觀察スルニ予モ亦、Abramov 等ノ云ヘルガ如ク、顎突出大ナルモノハ、梨子狀口下縁ノ鈍縁ナルモノ(二三・三%)、下縁ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ(一九・二%)、及ビ下縁ガ Clivus nasoalveolaris ヲ表ハセルモノ等ハ、顎突出大ナルモノニシテ梨子狀口下縁ノ銳縁ナルモノ(一四・七%)ニ比シ頗ル多キヲ見タリ。

#### 第八節 鼻高徑ト梨子狀口下縁形狀

Zuckerlandi 及ビ Hohl ノ云ヘルガ如ク、梨子狀口下縁ガ骨組織ノ吸收現象ニヨリ形成セラル、モノナリトセバ、梨子狀口下縁各型ノ間ニハ、眼窩部高徑ト下眼窩部高徑トノ比較ニ於テ、何レカノ關係ヲ有スルモノナルヲ知リ得ベシ。

Zuckerlandi ハ鼻前窩及ビ Clivus nasoalveolaris ノ多ク存在セル馬來人頭蓋ヲ觀察シ、眼窩部高徑ヨリ下眼窩部高徑ノ著シク大ナルヲ見、又 Hohl ハ鼻前窩ヲ有スル頭蓋五例ニツキ、下眼窩部高徑ノ眼窩部高徑ヨリ大ナルヲ見タリ。予モ亦、コレ等關係ニ興味ヲ覺エ、觀察セルニ結果次ノ如シ。

眼窩部高徑及ビ下眼窩部高徑平均値ハ、第二十七表ノ如ク、何レノ梨子狀口下縁形狀ニアリテモ眼窩部高徑ハ下眼窩部高徑ヨリ大ニシテ、且ツ兩徑平均値差モ、各種梨子狀口下縁形狀ニ於テ略々相似タリ。

眼窩部高徑ト下眼窩部高徑トノ大サヲ、

第二十七表 梨子狀口下縁形狀ト鼻高徑（眼窩部高徑、下眼窩部高徑平均差）トノ關係

下縁形狀	性別	例數	鼻 高 徑		
			眼窩部高徑	下眼窩部高徑	兩高徑差異
Forma anthropina	♂	110	26.12	22.38	3.74
	♀	66	24.71	21.33	3.38
Forma infantilis	♂	39	25.17	22.51	2.66
	♀	32	23.80	20.59	3.21
Fossa praenasalis	♂	24	25.84	21.93	3.91
	♀	25	24.80	21.52	3.28
Clivus nasoalveolaris	♂	8	26.33	23.32	3.01
	♀	4	22.30	20.85	1.45

第二十八表 梨子狀口下縁形狀ト鼻高徑（眼窩部高徑、下眼窩部高徑差異頻度）トノ關係、( ) %

下縁形狀	性別	例數	眼窩部高徑 > 下眼窩部高徑	眼窩部高徑 = 下眼窩部高徑	眼窩部高徑 < 下眼窩部高徑
Forma anthropina	♂	110	87(79.1)	11(10.0)	12(10.9)
	♀	66	52(78.8)	10(15.2)	4( 6.1)
Forma infantilis	♂	39	25(64.1)	6(15.4)	8(20.5)
	♀	32	23(71.9)	5(15.6)	4(12.5)
Fossa praenasalis	♂	24	19(79.2)	4(16.7)	1( 4.2)
	♀	25	18(72.0)	6(24.0)	1( 4.0)
Clivus nasoalveolaris	♂	8	7(87.5)	1(12.5)	—
	♀	4	2(50.0)	1(25.0)	1(25.0)

(A) 眼窩部高徑ノ下

眼窩部高徑ヨリ大ナルモノ、

(B) 眼窩部高徑ノ下

眼窩部高徑ト相等

シキモノ、

(C) 眼窩部高徑ノ下

眼窩部高徑ヨリ小

ナルモノ、

ニ分チ、觀察セルニ、

第二十八表ニ示スガ如

ク、鼻前窩ヲ表ハセル頭

蓋ハ、下眼窩部高徑ノ眼

窩部高徑ト相等シキモノ

ハ、何レノ梨子狀口下縁

形狀ノモノヨリモ大ナルヲ見タリ（男性一六・七%、女性二四・〇%）、然レドモ鼻前窩ヲ有セル頭蓋ニアリテモ、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルモノハ、男性七九・二%、女性七二・〇%ニシテ、比率甚ダ大ナルヲ知ル。

猶ホ同様ナル事實ヲ 第二十九表ニ示スガ如ク、Forma anthropinaノ

平均示數男性八六・七二、女性八六・七九、Forma infantilisノ平均示數男性九〇・七二、女性八七・一〇、Fossa praenas-

第二十九表 梨子狀口下縁形狀ト鼻高徑(平均示數)トノ關係

下縁形狀	性別	例數	下眼窩部高徑 眼窩部高徑 × 100
Forma anthropina	♂	110	86.72
	♀	66	86.79
Forma infantilis	♂	39	90.72
	♀	32	87.10
Fossa praeasalis	♂	24	85.13
	♀	25	87.70
Clivus nasolabialis	♂	8	88.76
	♀	4	95.18

總括

予ガ北陸頭蓋四百二十一個、(内、男性二百五十四個、女性百六十七個)ノ梨子狀口下縁ノ形態ヲ研究セル所ヲ總括約言スルニ次ノ如シ。

一、鼻高徑ノ眼窩部高徑及ビ下眼窩部高徑

眼窩部高徑ハ男女性共ニ加齡的ニ僅カニ増大ス。即チ小兒期  $20.0 \pm 0.32$ 、少年期男性  $24.4 \pm 0.32$ 、女性  $23.3 \pm 0.44$ 、成人期男性  $25.9 \pm 0.11$ 、女性  $24.5 \pm 0.13$  ナリ。

下眼窩部高徑モ亦加齡ト共ニ増大シ、シカモ増大率ハ眼窩部高徑ニ於ケルヨリ著シ。即チ小兒期  $13.1 \pm 0.28$ 、少年

alisハ平均示數男性八五・一三、女性八七・七〇、Clivus nasolabialisノ平均示數男性八八・七六、女性九五・一八ニシテ、Clivus nasolabialisノ女性平均示數九五・一八ノ外ハ、何レノ梨子狀口下縁形狀ニアリテモ、平均示數略々相似タリ。

第三十表ハ梨子狀口下縁形狀ト鼻高徑示數頻度トノ關係ヲ示セルモノニシテ、Forma anthropinaハ兩性共ニ示數八五・〇〇—八九・九九級ノモノ多ク、Forma infantilisハ男性ハ示數一〇〇・〇〇—一〇四・九九級、女性ハ主數九〇・〇〇—九四・九九級ノモノ多ク、Fossa praeasalisハ男性ハ主數八〇・〇〇—八四・九九級、女性ハ主數八五・〇〇—八九・九九級ノモノ最モ多シ。

第三十表 梨子狀口下縁形状ト鼻高徑(示數頻度)トノ關係、( )%

下眼窩部高徑 × 100	♂				下眼窩部高徑 × 100	♀			
	Forma anthropina	Forma infantilis	Fossa praenasalis	Clivus nasolabialis		Forma anthropina	Forma infantilis	Fossa praenasalis	Clivus nasolabialis
59.38—59.99	—	1 (2.6)	—	—	60.00—64.99	1 (1.5)	1 (3.1)	1 (4.0)	—
60.00—64.99	5 (4.5)	1 (2.6)	1 (4.2)	—	65.00—69.99	2 (3.0)	2 (6.3)	1 (4.0)	1 (25.0)
65.00—69.99	3 (2.7)	2 (5.1)	—	—	70.00—74.99	7 (10.6)	4 (12.5)	2 (8.0)	—
70.00—74.99	10 (9.1)	2 (5.1)	3 (12.5)	—	75.00—79.99	10 (15.2)	4 (12.5)	2 (8.0)	—
75.00—79.99	15 (13.6)	1 (2.6)	4 (16.7)	—	80.00—84.99	10 (15.2)	4 (12.5)	3 (12.0)	—
80.00—84.99	19 (17.3)	6 (15.4)	5 (20.8)	1 (12.5)	85.00—89.99	11 (16.7)	3 (9.4)	5 (20.0)	—
85.00—89.99	23 (20.9)	6 (15.4)	4 (16.7)	4 (50.0)	90.00—94.99	8 (12.1)	5 (15.6)	3 (12.0)	1 (25.0)
90.00—94.99	10 (9.1)	4 (10.3)	2 (8.3)	2 (25.0)	95.00—99.99	5 (7.6)	1 (3.1)	4 (16.0)	—
95.00—99.99	4 (3.6)	3 (7.7)	1 (4.2)	1 (12.5)	100.00—104.99	8 (12.1)	4 (12.5)	3 (12.0)	1 (25.0)
100.00—104.99	9 (8.2)	7 (17.9)	3 (12.5)	—	105.00—109.99	2 (3.0)	3 (9.4)	—	—
105.00—109.99	8 (7.3)	5 (12.8)	1 (4.2)	—	110.00—114.99	1 (1.5)	—	—	—
110.00—114.99	1 (0.9)	—	—	—	115.00—119.99	1 (1.5)	1 (3.1)	—	—
115.00—119.99	2 (1.8)	—	—	—	120.00—123.81	—	—	1 (4.0)	1 (25.0)
120.00—123.81	1 (0.9)	1 (2.6)	—	—	計	66	32	25	4
計	110	39	24	8	計	66	32	25	4

期男性 20.11±0.48、女性 19.21±0.38、成人期男性 22.41±0.11、女性 21.11±0.14ナリ。

眼窩部高徑平均値ト下眼窩部高徑平均値トノ差ハ小兒ニ於テ最大ニシテ(六・九)、成人期ニ於テ最モ小サク、男性

三・五、女性三・四ナリ。

眼窩部高徑下眼窩部高徑示數ハ小兒期 66.33±0.96、成人期男性 87.51±0.63、女性 87.09±0.76ニシテ加齡ト共ニ著

シク増大セリ。

以上ノ計測結果ヨリ見ルニ、小兒ノ眼窩部高徑ハ下眼窩部高徑ニ比シ大ナルモノニシテ、成人ノ眼窩部高徑ハ下眼

窩部高徑ニ比シ小ナルモノナリ。

Zuckerlandi ハ銳利ナル梨子狀口下縁ハ下縁ノ吸收現象ニヨリ成立スルモノニシテ、吸收現象ノ起ラザル小兒頭蓋ノ眼窩部高徑ハ下眼窩部高徑ニ比シ大キク、成人ニアリテハ下縁ノ吸收現象ニヨリテ下眼窩部高徑ハ眼窩部高徑ニ比シ著シク大ナルモノナリト言ヘリ。予ノ以上ノ事實ハ Zuckerlandi ノ論述ヲ全ク裏書キセルモノト言フヲ得ベシ。

## 二、梨子狀口下縁形状

成人ニアリテハ銳縁ニヨリ境界サル、梨子狀口下縁形状即チ *Forma anthropina* 最も多シ(五七・一%)。*Fossa praenasalis* ハ一五・九%、*Clivus nasolveolaris* ハ二・九%ニシテ、甚ダ尠ク、本邦人頭蓋ニアリテハ一ノ異常型タルヲ思ハシム。

性的ニ見ルニ下縁形状ノ鈍縁ナルモノ(*Forma infantilis*)及ビ *Fossa praenasalis* ハ女性ノ方男性ヨリ多ク(*Forma infantilis* 男性二一・五%、女性二五・二%、*Fossa praenasalis* 男性一三・三%、女性一九・七%)、下縁形状ノ銳縁ナルモノハ男性ノ方女性ヨリ多シ(男性六〇・八%、女性五二・〇%)。

小兒及ビ少年期ニ於テハ下縁形状ノ鈍縁ナルモノ成人ニ比シ頗ル多ク小兒期ハ調査材料ノ全部ガコレニ屬シ、少年期ハ四五・八%ニ於テ存在スルヲ認メタリ。

人種別ニ見ルニ *Forma anthropina* ハ Abramov ノ調査ニヨル歐洲人ノ七五・〇%ヨリハ甚ダ尠キモ、歐洲人ニテモ *Holl* ニヨル「チロール人」及ビ「ケルント人」ノ三〇・八%ヨリハ甚ダ多ク、蒙古人ノ五〇・〇%ト略々相似タリ。

*Forma infantilis* ハ Abramov ノ調査セル蒙古人(一〇・〇%)、及ビ Mingazzini ノ調査ニナル伊太利人(九・九%)ヨリ著シク大ナルモ *Holl* ニヨル「チロール人」及ビ「ケルント人」ノ二六・九%ト比率略々相同ジ。

*Fossa praenasalis* ハ *Holl* 調査ノ「チロール人」「ケルント人」(二六・九%)及ビ Zuckerlandi ノ馬來人(三四・八%)ヨリハ甚ダ尠ク「ウラルアルタイ人」(一八・七%)ト略々相似タリ。

*Clivus nasolveolaris* ハ *Holl* ニヨル「チロール人」「ケルント人」ノ一五・四%及ビ Mingazzini ニヨル伊太利人ノ七・七%

ヨリハ幾分小ニシテ Abramov ニヨル「ロシヤ人ノ五・二％ト殆ンド相同ジ。

### 三、鼻前窩 (Fossa prenasalis)

Bonn ニヨル「鼻前窩ノ形狀ハ人種的ニ差異アルモノニシテ濠洲人、<sup>1</sup>「タスマニヤ人、黑人及ビ馬來人等ハ後櫛 (Crista posterior) ニヨリテ鼻腔ト顔面トヲ境スル鼻前窩形狀多ク、歐洲人及ビ蒙古人ハ前櫛 (Crista anterior) ニヨリテ鼻腔ト顔面トヲ境セル鼻前窩形狀多シ。

予ノ觀察ニヨルニ本邦人頭蓋ニアリテモ、歐洲人及ビ蒙古人ト相同ジク、鼻腔ト顔面トノ境界ハ後櫛 (Crista posterior) ニヨレル鼻前窩形狀ノモノ、前櫛ニヨレルモノニ比シ多キヲ見タリ (後櫛ヲ境トスルモノ五七・四％、前櫛ヲ境トスルモノ四二・六％)。

### 四、頭蓋型ト梨子狀口下緣形狀

予ノ觀察ニヨルニ Abramov ノ結果ト全く相反シ、長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノハ男性二四・二％、女性一九・〇％、長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノハ男性三九・五％、女性二一・四％ニシテ男女性共ニ長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ鈍緣ナルモノハ、長徑頭蓋ニシテ梨子狀口下緣ノ銳緣ナルモノニ比シ大ナリ。猶ホ廣徑頭蓋ニシテ下緣ノ銳緣ナルモノハ (男性一七・九％、女性二九・三％)、廣徑頭蓋ニシテ下緣ノ鈍緣ナルモノヨリ (男性五・三％、女性一〇・七％) 著シク多シ。

### 五、上顔面型ト梨子狀口下緣形狀

予ノ調査ニヨルニ上顔面 Mesen ナル時ハ下緣ハ銳緣ノモノ多ク (男性五八・三％、女性四六・七％)、Fruryen ナル時ハ下緣ノ鈍緣ナルモノ (男性四二・三％、女性五〇・〇％) 及ビ下緣ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ (男性四三・八％、女性五〇・〇％) 等多クシテ Abramov 及 Kollmann ノ說ハ本邦人頭蓋ニアリテモ略々適用シ得ルモノナルヲ信ズ。

### 六、鼻型ト梨子狀口下緣形狀

本邦人頭蓋ニアリテモ Abramov ノ云ヘルガ如ク、長鼻型及ビ中鼻型ハ梨子狀口下縁ノ銳緣ナルモノ多ク(長鼻型ニシテ下縁ノ銳緣ナルモノ 男性三七・四%、女性一三・三%、中鼻型ニシテ下縁ノ銳緣ナルモノ 男性三七・四%、女性三三・三%)、扁平鼻型ハ下縁ノ鈍ナルモノ及ビ下縁ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ甚ダ多シ(扁平鼻型ニシテ下縁ノ鈍ナルモノ 男性四一・〇%、女性三九・三%、扁平鼻型ニシテ鼻前窩ヲ形成セルモノ 男性三八・一%、女性五二・三%)。

#### 七、顔面角ト梨子狀口下縁形狀

Abramov ノ言ヘルガ如ク、顎突出大ナルモノニテハ、梨子狀口下縁ノ鈍緣ナルモノ(二三・三%)、下縁ニ鼻前窩ヲ形成セルモノ(一九・二%)、及ビ下縁ガ *Clivus nasolabialis* ヲ表ハセルモノ等ハ、顎突出大ナルモノニシテ梨子狀口下縁ノ銳緣ナルモノ(一四・七%)ニ比シ頗ル多キヲ見タリ。

#### 八、鼻高徑ト梨子狀口下縁形狀

Zuckerlandi ハ下縁ニ鼻前窩ヲ有スルコト多キ馬來人頭蓋ニアリテハ鼻高徑ノ下眼窩部高徑ガ眼窩部高徑ヨリ大ナルモノ甚ダ多シト云ヒ(三〇・八%)、Holl モ亦、鼻前窩ヲ有セル五例ノ頭蓋ニ於テ、コレ等ノ總テノ下眼窩部高徑ハ眼窩部高徑ヨリ大ナルヲ見タリト報告セリ。

予ハ鼻前窩ヲ表ハセル頭蓋ハ、下眼窩部高徑ノ眼窩部高徑ト相等シキモノハ、何レノ梨子狀口下縁形狀ノモノヨリモ大ナルヲ見タリ(男性一六・七%、女性二四・〇%)。然レドモ鼻前窩ヲ有セル頭蓋ニアリテモ、眼窩部高徑ノ下眼窩部高徑ヨリ大ナルモノハ男性七九・二%、女性七二・〇%ニシテ、比率甚ダ大ナリ。

終リニ望ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリタル岡本教授ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス。

#### 参考文献

- 1) Abramov, A., Ueber die Variationen der Apertura piriformis und ihre geographische Verbreitung. *Ruski Anthropol. Zurn.*, II. 19-20 S. 47.

- 8 Fig. 1905 (Nach Schwalbes Jahresberichte). 2) Bennett, B. R., Three forms of the human nose. Anat. Record, Vol. 7 N. 2 S. 43-46.
- 3) Bonin, G., Zur Morphologie der Fossa prae nasalis. 22 Fig. Zeitschr. Ethnol., Jahrg. 45. II. 3 S. 613-615. 4) Charlotte, G., A contribution to the morphologie of the apertura pyriformis. (Smith College) Amer. Jour. Phys. Anthropol., V. 6 pp. 27-36 1923. 5) Golling, J., Anthropologische Untersuchungen ueber das Nasenskelett des Menschen. 8 Taf. u. 11 Fig. Zeitschr. f. Morphologie u. Anthropologie. Bd. 17. II. 1 S. 1-82. 6) 平井：樺太アイヌ人ノ骨ノ人類學的研究、第一部、頭蓋骨ノ研究、人類學雜誌、第四拾二卷附錄。 7) Holl, G., Ueber die Fossae praenasalis des menschlichen Schädels. Wien. med. Wochenschr. XXXII. 24. 1882. 8) Holl, M., Ueber die Fossae praenasalis des menschlichen Schädels. Wiener med. Wochenschr. Nr. 24. S. 722. Nr. S. 753. 9) 小金井廣精：鼻前高ト鼻下高、第三十五回日本解剖學會記錄。 10) Macalister, The apertura pyriformis. Journ. Anat. and Phys., Vol. 32. N. S. Vol. 12 P. 2. S. 223 (Nach Schwalbes Jahresberichte). 11) 宮本：東部亞細亞ニ於ケル諸人類種ノ人類學的研究、第一輯、第二、現代日本人ノ骨ノ人類學的研究、第一部、頭蓋骨ノ研究、東京人類學雜誌、第三九卷、第一〇號、第一一號、第一二號。 12) Mingazzini, G., Ueber die onto- und phylogenetische Bedeutung der verschiedenen Formen der Apertura pyriformis. Archiv f. Anthropologie. XX. II. 3 S. 172 bis 180. 13) Thomas, D., Fossa praenasalis. Americ. J. of medical Science. V. 103. 1892. N. 2 = Whole N. 238. P. 156-163 od. Archiv f. Anthropol. Bd. 21. 1892. 14) Virchow, H., Die anthropologische Untersuchung der Nase. 49 Fig. Zeitschr. Ethnol., Jahrg. 44 II. 2. S. 289-337. 15) Zuckerkandl, E., Fossae praenasales. 10 Textillustr. Mitteil. der anthropol. Ges. in Wien. Bd. 24 (Neue Folge Bd. 14). II. 3. Sb. N. 3. P. 57-59 (Nach Schwalbes Jahresberichte).

## 附圖說明

寫眞ハ總テ、實大二分ノ一ニシテ「ノルマフロンタリス」ニテ撮影セリ。

- 一、第一圖、標本番號「三七六」、年齡四十四歲、男性、  
鼻前高ヲ示ス。予ノ分類ニヨル第IV型ニ屬シ、鼻腔、顔面部境界ハ後鼻樑ニヨル。前鼻樑ハ前鼻棘ニ達セズ、略々下縁中央部ニ自然消失セリ。
- 一、第二圖、標本番號「四〇四」、年齡六十四歲、男性、  
鼻前高ヲ示ス。予ノ分類ニヨル第II型ニ屬シ、鼻腔、顔面部境界ハ前鼻樑ニヨル。
- 一、第三圖、標本番號「四三〇」、年齡三十二歲、女性、  
鼻前高ヲ示ス。第二圖ト全ク相同シキ形狀ニシテ、予ノ分類ニヨル第II型ニ屬シ、鼻腔、顔面部境界ハ前鼻樑ニヨル。
- 一、第四圖、標本番號「一九三」、年齡二十歲、女性、十字頭蓋、



鼻前窩(右側)ヲ示ス。予ノ分類ニヨル第II型ニ屬シ、鼻腔、顔面部境界ハ前鼻樑ニヨル。左側ニモ僅カニ、前鼻樑及ビ後鼻樑ノ形成ヲ見ルモ、發育弱キ爲メ、明ラカナラズ。

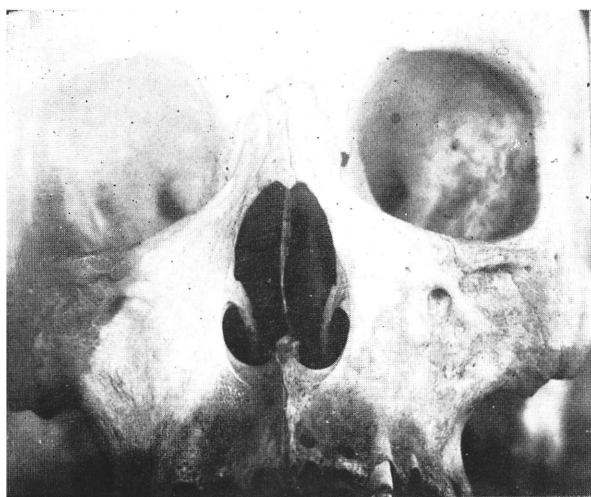
一、第五圖、標本番號「五七一」、年齡六十七歲、男性、

*Clivus nasolacrimalis*ヲ示ス。鼻腔、顔面部間ニハ、何等ノ境界ナク、鼻腔底ハ直チニ、顔面部ニ移行セルヲ見ル。

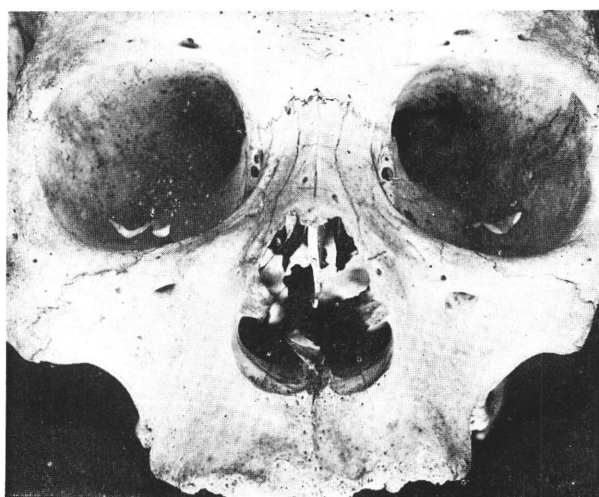
附圖ニ要スル撮影ニハ廣瀬、野田ノ兩氏ヲ煩ハセリ、茲ニ深ク感謝ス。

## 二 井 論 文 附 圖

第 一 圖



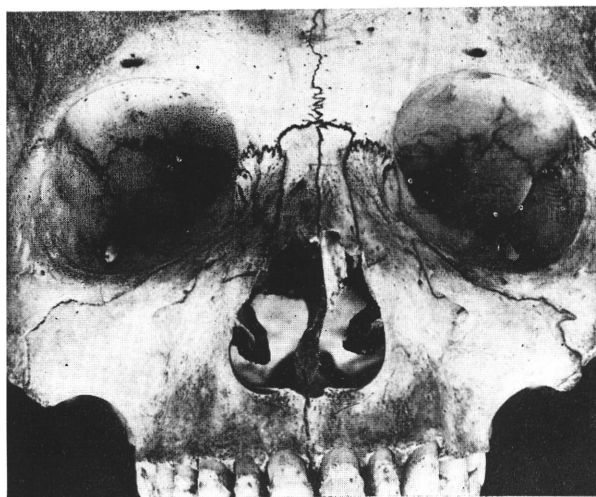
第 二 圖



第 三 圖



第 四 圖



第 五 圖

